

第 8 回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 2 年 7 月 1 5 日（水曜）		午前 1 1 時 0 0 分 開会	
	休憩 12:01-13:30			
	午後 2 時 1 3 分 閉会			
	休憩時間： 1 時間 2 9 分		会議時間： 1 時間 4 4 分	
会 議 場 所	役場 3 階 第 1 委員会室			
出 席 委 員 氏 名	委員長 正村紀美子	委 員 中村 和宏		
	副委員長 鈴木 健充	委 員 柴田 正博		
	委 員 黒田 栄継	委 員 西尾 一則		
	委 員 堀切 忠			
説 明 員				
参 考 人				
欠 席 委 員 氏 名				
事務局職員	事務局長 仲野 裕司	係長 佐藤 史彦		
『会議に付した事件と会議結果など』				
1 開 会 委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。				
2 議 件 (1) 調査事項 ア 新嵐山スカイパーク活用計画について 委員長：資料は前回の意見を踏まえてまとめたもの。7 項目のまとめについて意見を いただきたい。 鈴木委員：前回で問題点の抽出はできており、まとめはこれでよい。 委員長：これで進めることと決定する。 委員長：7 項目から考えられるテーマ全体に関する課題・目標についての記載につい て。 鈴木委員：活性化計画の位置づけとしては、第 5 期総合計画に基づいているもの。コン セプトとしては一致しているが、町民にとって誇れる場所として適切な状態で進め られるかは疑問が残る。計画の内容は町民が望んでいるものかという部分も考える 必要がある。 委員長：記載の 3 点で議論を進めたい。				

(異議なし)

委員長：構想、計画についての追加資料を確認いただきたい。

柴田委員：示されている活用計画は基本計画の中に一部実行計画が含まれたものと捉えられる。応援できる方向であるかなどが明確であればよいが、現状はぼやけている。

中村委員：問題点があるから構想がある。構想により問題を解決するための計画を作っていく。町民からの情報収集なども行わなければ計画にならない。もう少し詳しいスケジュール感などが必要ではないか。

委員長：問題点が明確ではない、目指す具体的な像が見えにくいという意見と思うが。

黒田委員：第5期総合計画からの流れと考える。目標としての町民が誇れる部分は必要だが、何を持って誇りとするのかが見えにくい。宿泊施設に関しては、町民が宿泊するのかという部分もある。焦点の絞り方によっては見えにくい部分がある。計画内容は必要な取り組みではあると考える。課題に対する目標とプランの紐づけがしっかりできれば分かりやすい。

西尾委員：20年前から比べると運営手法も変わった。計画は想いとしてはよい。行政で進めていくと、誇れるものという抽象的なものになってしまう。見えない中で進まざるを得ないのが嵐山という感覚がある。

委員長：計画には不足している部分があるという意見。目指す方向は間違いではないが、具体的なものが見えづらく、計画とは言いながら構想的な部分もあり曖昧。この計画のみで進めるのはいかがか。

柴田委員：既に実施計画の段階に入っている。キャンプなどの事業を開始した後の展望をどう考えているか。予算についてはまだ見えないが、整備等をどうするのかなど明確にしていくべき。事業ごとの計画も必要。

委員長：活用計画の下に個別の計画、予算を紐づける必要がある。

鈴木委員：様々な事業が検討されているが、本体が抜けている。宿泊施設をどうしていくかが見えない。町民から意見をいただくが、嵐山を何とかしてというのは本体、宿泊施設をという点と捉えている。

堀切委員：一つひとつの事業は悪いと思わない。宿泊施設などの中心的な部分をどうするかが具体的に見えていないことがすっきりしない部分。

委員長：活用計画は構想か基本計画かという部分。町民にとって魅力ある場所を目指してはいるが、個別具体的な計画を作っていくべき。この計画は適切なのか。

黒田委員：様々なことをやりながら進めていく部分もあり得る。サホロ、トマムなどのリゾートも周辺にあるが、嵐山はそこを目指していない。利益だけを追求するのではないことも念頭に、町民の考えと全く違うということでもない。町民に喜んでもらえる取り組みとしての計画にはなっている。本体の部分は今後の展開の中で示してもらう必要がある。

鈴木委員：活用計画自体はこのままでもよい。ロードマップでは本体の改修等が後回しになっているが、町として被災したオートキャンプ場を先に何とかしたいという考えも理解はできる。

委員長：活用計画に問題は無いという意見。課題と目標はこれまでの意見でまとめた

い。目指す方向は正しいが、個別の活用計画も必要。

委員長：総括、委員が合致する点について。

（異議なし）

委員長：記載のとおりとする。

委員長：総括、委員の争点について。

委員長：計画に町民の声が反映されているのか、いないのかについて。

柴田委員：夏はキャンプ場、冬はスキー場というのが昔のイメージ。少子化などでそれが変わってきた。町民の関心事としての嵐山はどうなっているのか。意見を募集しても返ってこない。

堀切委員：アンケートでは聞きましたで終わり。意見のやり取りがない。幅広い方々による喧々諤々の議論が必要。どれだけの人が関わったかが重要。

中村委員：町民の声を聴く努力はわかる。それが反映されたかどうかの意識は町民それぞれ。形になったかを測ることは難しい。

黒田委員：反映は個人の主観。争点にはならない。

鈴木委員：計画作成にあたって様々な意見を反映している。嵐山に関しては議会からも一般質問等で働きかけている。全てを反映させることは難しく、町も意見は聴きながら進めている。争点にすべきではない。

委員長：町民の意見が反映されていないという意見がこれまでもあったが。

柴田委員：意見をいただければ必ず検討はする。実行できるかは別。手法としてという部分は検討の余地はあるが、反映されているかどうかは別。

委員長：前回の問題点にはあったので記載している。争点にはならないという意見であったが、計画に対しての町民参加は十分だったか。

堀切委員：サウンディング調査を基に計画が作られており、事業者側の視点が多いのではないか。町民の視点がもっとあってもよかった。

委員長：午前中に引き続き計画策定にあたって町民の意見が反映されたのか。

鈴木委員：議会においてもモニターやPTAなど町民との意見交換は行ってきた。一般質問等でもそれらを踏まえた議論がされており、反映されていると考える。

委員長：議会が果たしてきた部分ということで意見があった。町民参画をテーマに議会も実施してきた。声を議員としても受け止めていると考えれば、今後も意見を反映していけると考えるが。

柴田委員：そのとおりでよい。

堀切委員：議会も町も全くやっていないとは言わないが不十分。

委員長：各意見を争点としてまとめることになる。

（異議なし）

委員長：「町民が誇れる」とは具体的な目標があるのか、それとも活用計画を進めていく中で「町民が誇れる」ものを作っていくのかについて。

柴田委員：活用計画にはファミリーというものが出てくる。具体的な設定は難しいが、家族をターゲットとするなら、そこに向けての明確な取組みなどを打ち出してもよい。

鈴木委員：ビジョンの中で農業をベースにという記載もあり、プランの1から4まで

もある。どちらかという町外の観光客向けという印象がある。町民の誇れるものという観点ではブレがある。アピール、説明が足りないと感じる。

中村委員：嵐山の環境は既に町民が誇っているもの。それぞれの年代によって意識の違いはある。全ての世代に合致するのは難しいが、相対的に場に対して良いと言えるものを目指すことで、自ずと形成されていくのではないかな。

黒田委員：ターゲットを町民と町外の来訪者にしている。来訪者向けが多いため、町民にどの部分でアクションするかが見えづらい。多くの人が訪れているという認識により誇れるのか。町民に芽室遺産の景色を知ってもらうことなどの細かい手法が示されるとよい。

委員長：既に活用計画にあるものと、今後形成されるものがある。嵐山は町民のための施設と考えるなら計画内容が不足しているとまとめられる。

(異議なし)

委員長：「町民が誇れる」とは外部から評価されるものなのか、それとも町民が参画することで育まれるものなのかについて。

堀切委員：町民が参画することで利用して誇りが育まれる。

中村委員：キャンプ場が素晴らしかったという意見や、そうでもなかったという意見もある。町民が利用して、素晴らしいと町外に発信できることが重要。

鈴木委員：町民が利用して、町外に波及することが必要。本来の観光事業の在り方。観光客だけがいて町民がいないという施設が理解されるか。嵐山の整備は町民の利活用を最優先に考えるべき。

堀切委員：観光地としての魅力は外部評価があることも事実。我々にはわからない部分が町外からの視点で見直されることもある。町民目線も必要。

委員長：町民の視点が重要とまとめる。

(異議なし)

委員長：新嵐山の再整備にかかる費用は多額になってもやむを得ないのか、否かについて。

柴田委員：美生の研修施設が夏は混んでいる。体験施設の需要はある。嵐山のコンセプトとして必要な部分に費用をかけることはあり得る。来てもらえれば良さはわかってもらえる。芽室の子どもたちの教育の場としても広がり考えられる。

委員長：提言の部分もあったと思うが、今後の提言も必要と考える。財政状況も踏まえ施設整備には上限を設けていくべきなのか。

堀切委員：町民の理解、共感による。多額の費用をかければよいというものではないが、情報提供しながら金額も決まっていく。

鈴木委員：財源確保の検討がなされているが、無条件とはならない。現段階ではどのくらいかかるかも明確ではない。実行計画的なものがあるべき。合理化できる部分の大胆な考え方も必要。計画性を持った動き方が必要。

委員長：町の負担を気にすると改善できないのではないかなという意見もあったが。

柴田委員：芽室町の財政状況からは厳しいものはある。どこに費用をかけていくか。どんな目的のために事業を進めるのかという視点。

委員長：個別の計画を作って進めるべきとも考えられる。長期的な計画が必要との議

論にも戻ってしまうが、多額の費用はかけるべきではない。

黒田委員：湯水のごとく使うべきではない。上限も決めるべきではない。収入がどれだけ確保できるかという視点も必要。民間に全て任せてサービス向上を進める例もあるが、町は独自に進んでいくという考えであり、投資していくこともやむを得ない。

鈴木委員：公設民営方式である。町が財産を持ち続けるのだから整備費用は町が持つことになる。財源を確保しながら進める必要がある。

委員長：行政財産とすることが決定しているが。

柴田委員：町が選択したもの。重要な施設を民間に渡すということのプレッシャーもある。今回の方針が間違っているとは思わない。

黒田委員：選択肢は様々ある中、町を選択には問題があるとは思わない。

委員長：他に争点はないか。

(なし)

委員長：全体をとおして。

(なし)

委員長：論点整理は以上とし、政策討論会に進めるため、全員協議会で趣旨等を説明したい。政策討論会に向けた資料等を作成し、委員会で議論していくことでよろしいか。

(異議なし)

委員長：決定とします。

委員長：以上で調査事項「ア 新嵐山スカイパーク活用計画について」を終わります。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

7月22日 水曜 9時30分からとします。

(2) その他

委員、事務局ともになし。

以上をもって、総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和2年7月15日

総務経済常任委員会委員長 正村紀美子